

水産物来週の見通し（10/18～10/23）

【鮮魚の概要】

高級では筋子、ぶりが増加。

近海は、秋鮭の水揚げが多いほか、道東で真ダチの水揚げ量も増加。

大口はさんまの時期が本格化。

【主要品目】

鮮マグロ⇒養殖本マグロ主体の入荷ですが、メバチ輸入、国産少々あり。

戸井、大間延縄漁による水揚げあり。また、カナダ、ボストンより天然ジャンボ入荷予定。

ホタテ ⇒オホーツクのみ水揚げで、水揚げが少しずつ減る中、依然冷凍の柱の引き合いが強いため、浜値は更に高めの傾向。

ホッキ ⇒苫小牧、噴火湾、日本海での水揚げ。数量・価格ともに安定。

ウニ ⇒利尻・礼文が終了となり、北方四島及びロシアで解禁。浜高傾向。

貝ツブ ⇒様似の水揚げは少なめで、襟裳も赤潮の影響により水揚げ少なめとなり、価格高騰。また今月末にはカゴ漁も終わるため上げ相場予想。

キンキ ⇒オホーツク中心の水揚げ。中国輸出の引き合いで価格は高め。

ヒラメ ⇒日本海方面の鮭定置の水揚げあり。価格は安値安定。

毛ガニ ⇒海外での水揚げも少なく、浜高安定。

カレイ ⇒真かれいはオホーツク中心。数量少なめ、価格は高め。

黒かれいもオホーツク等道東中心で、水揚げ少なめ。価格は高め。

まいか ⇒苫小牧、函館、噴火湾中心の水揚げ。水揚げ多め。価格は下げ相場。

秋鮭 ⇒全道的な水揚げ減少により、価格高騰中。

アサリ ⇒厚岸・根室中心。共に内地への引き合いが強いため価格は若干の上げ相場。

エビ ⇒ぼたんえびは、主に日本海からの入荷。ケタ漁主体へ。水揚げ少なめだが浜安傾向。南蛮えびも日本海より入荷。水揚げ増加につき下げ相場。